

校長室だより



2013(H25)年度 NO.1. 岸和田市立浜小学校 渡瀬 克美

新年度がスタートしました。今年も『子どもが主役の学校』 をめざします。どうぞよろしくお願ひします！

今年は、殊のほか桜の開花が早く、春の訪れが早かったように思えましたが、やはり「花冷え」と「寒の戻り」を感じています。4月は別れと出会いの季節で、それがせつ的な桜の花とマッチするのでしょうか。新たな先生方を迎え心機一転、みんな一生懸命です。

さて、私は浜小学校でお世話になって11年目です。もう第二の故郷です。教師歴でも、約三分の一をこの小学校で勤務させていただいているのです。愛着がわくのは当たり前ですね。

今年度、40名の可愛い子どもたちが入学してくれました。この時に子どもたちの前で「教室はまちがえるところだ!」という詩の絵本を読ませていただきました。私は28歳くらいの時に初めてこの詩に出会い、衝撃を受けたことを昨日のように思い出します。以後こんな教室をつくりたいとずっと思っていました。授業研究を通して、浜小学校の先生たちと、同じ思いになれたという確信が持てましたので、初めて子どもたちの前で、しかも入学式という場で読ませていただいたという次第です。また、17日の1年生と全校生との対面式の後の全校朝会でもプロジェクターを使って読ませてもらいました。みんな、シーンとしてしっかり聴いてくれました。子どもたちにもかなり伝わったと思います。

今度は、こんな学校をつくりたいという願ひです。保護者の中にもご存知の方がおいでかと思いますが、「教室はまちがうところだ」を紹介させていただきます。



教室はまちがうところだ

まきたしんじ

教室はまちがうところだ

みんなどしどし 手をあげて

まちがった意見を 言おうじゃないか

まちがった答えを 言おうじゃないか

まちがうことを おそれちゃいけない

まちがった者を わらっちゃいけない

まちがった意見を まちがった答えを

ああじゃないか こうじゃないかと

みんなで出しあい 言いあう中で

本とものを みつけていくのだ

そうしてみんなで 伸びていくのだ



いつも正しく まちがいのない

答えをしなくちゃ ならんと思って

そういうところだと 思っているから

まちがうことが こわくてこわくて

手もあげないで 小さくなって

だまりこくって 時間がすぎる



しかたがないから 先生だけが
勝手にしゃべって 生徒はうわのそら
それじゃちっとも のびてはいけない
神様でさえ まちがう世の中
ましてこれから 人間になろうと
しているぼくらが まちがったって
なにがおかしい あたりまえじゃないか

うつむき うつむき

そうっとあげた手 はじめてあげた

先生がさした

ドキリとむねが 大きく鳴って

どきどきと 体が燃えて

立ったとたんに 忘れてしまった

なんだかぼそぼそ しゃべったけれども

何を言ったか ちんぷんかんぷん

私はコトリと すわってしまった

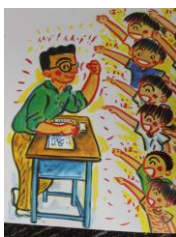

体がすうっと 涼しくなって

ああ言やよかった こう言やあよかった

後でいいこと 浮かんでくるのに

それでいいのだ いくどもいくども



<p>おなじことを くりかえすうちに それからだんだん ドキリがやんで 言いたいことが 言えてくるのだ はじめからうまいこと 言えるはずないんだ はじめから答えが あたるはずないんだ 何度もなんども 言ってるうちに 間違いうちに 言いたいことの 半分くらいは どうやらこうやら 言えてくるのだ そうしてたまには 答えもあたる</p> <p>まちがいだらけの ぼくらの教室 おそれちゃいけない 笑っちゃいけない 安心して 手をあげる 安心して 間違いや 間違ったって 笑ったり ばかにしたり 怒ったり そんなものは おりゃあせん</p> 	<p>間違えたって 誰かがよ 直してくれるし 教えてくれる 困った時には 先生が ないチエしぼって 教えるで そんな教室 つくろうやあ</p> <p>おまえ変だと 言われたって あんたちがうと 言われたって そう思う だからしょうがない</p> <p>だれかがかりにも 笑ったら 間違うことが なぜ悪い 間違ってること 分かればよ 人が言おうが 言うまいが おらあ自分で あらためる 分らなけりゃ そのかわり 誰が言おうと こぶこうと おらあ根性 まげねえだ</p> <p>そんな教室 つくろうやあ</p> 
--	--

この詩について児童文学作家の 宮川ひろ さんが次のような文章を寄せています。

「わかった人」「できた人」
授業を進めていく先生の問いかけは、こんなことばで始まります。わからなければ、できなければ、手を挙げることなどできません。小さくなってだまりこくって、それでもやっと手を挙げて答えたとき、先生は「うん、そうね、ほかに」とあいまいな言葉をかけたまま……。先生の目は、確かな答えをしてくれそうな人へと移っていきます。そのときの子どものさびしそうな顔が浮かびます。教室はまちがうところ、まちがいながら答えを探していくところ—そのことがしっかり分かっていたら、どの子どもどんなにか楽しく、授業に参加できたでしょうに。……略

元読売新聞論説委員の 永井順國 さんは

……物事は複眼的・多元的に、かつ総合的に、さらには批判的に見なければならぬ。この詩は単に子どもが手にするだけに終わってしまってもったいない。先生と名のつく人には必読の書であり、教師をめざす学生、さらにはお母さんたちにも薦めたい。そう考えている

私もまったく同感です。私自身の教師生活を反省しつつ、再度この詩を読むとき、子どもたちが自分に自信をもって堂々とまちがいや失敗を恐れず明日に向かって生きていってほしいと思います。あのノーベル賞受賞者の山中さんも、ホンダ自動車の本田宗一郎さんも、みんな失敗を糧に成功していったのです。

そんなに偉い人ばかりの話でなくとも、学校にみんなが来て勉強する意味・意義は仲間の中でこそ育つということなのです。実は、わからないことを「分かりません」「もう一度分かるように教えて」と言える人の力が、分かっているつもりの方の「分かり方を整理してあげているのです」。だから、みんな対等平等なのです。

今年度も全教職員が丸一となって子どもたちが主役になり、笑顔輝く学校にしていきたいと考えていますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

明日（23日）は、学習参観、そしてPTA総会と実行委員会がございます。今年度のPTA会長候補は、前年度の副会長 新屋 久和 様です。たくさんの方々のご参加でご承認賜りますようご案内申し上げます。よろしくお願ひ申し上げます。